

令和２年度第１回亀岡市総合戦略推進会議 議事要旨録

日 時：令和２年８月２８日（金） ９時３０分～１２時１０分

場 所：亀岡市役所 ３０２・３０３会議室

出席者：鈴木康久委員長、川勝啓史副委員長、青山公三委員、浦本博臣委員、楠善夫委員、柴田晃正委員、多胡麻衣委員、並河景子委員、前川二郎委員、三宅基子委員

議 題：１ 開 会

２ 議 事

（１）地方創生事業に係る検証について

（２）亀岡市人口ビジョン・総合戦略（素案）について

（３）今後のスケジュールについて

（４）その他

３ 閉 会

１ 開会

２ 議事

（１）地方創生事業に係る検証

○事業№.１「大河ドラマ「麒麟がくる」を契機にした「城下町」レガシープロジェクト事業」について説明（事務局）

○事業№.１に係る質疑・意見

A 委員

- ・大河ドラマは８月３０日の放送再開後、予定通り全４４話を放送されると聞いている。これから舞台は丹波と福知山となるので、これを契機に再度盛り上がってくればよい。平均視聴率も１５～１６％程度だが、今後ますます上がるのではないかと考えている。

委員長

- ・ＪＲ亀岡駅のスポット展示も良い感じである。

B 委員

- ・コロナ禍での努力が伝わってくる。タイトルにレガシーとあるが、後にくものは何か。

光秀大河推進課長

- ・大河ドラマについては平成２３年から誘致活動が続けてきた。亀岡で光秀ゆかりの地といえば、丹波亀山であるが、「亀岡」と「亀山」であり認知しづらいという課題を感じており、亀岡が光秀ゆかりの地であることを宣伝するため、誘客宣伝に力を入れている。他に城下町や谷性寺、

光秀まつりなどもあり、各地をめぐっていただくことが大事と考え、整備している。実行委員会には誘客宣伝部会、おもてなし部会、ドラマ館部会、商業振興部会の4つの部会があり、全国へ亀岡を発信する取組をしている。

B 委員

- ・現在取り組んでいることは分かった。ドラマ放送終了後も続いていくものは何か。

光秀大河推進課長

- ・ききょうの里などの、ゆかりの地での事業は今後に残っていくものである。また、市民向けの講座や手作り甲冑、鉄砲隊、祭りへの参加などを促進しており、市民に誇りを持ってもらえるような事業を実施している。光秀は裏切り者のイメージがあったが、これを機会に光秀ゆかりのまちであることを市民に誇りを持ってもらえるようにしていきたい。

B 委員

- ・市民が参加することはレガシーと言える。レガシープロジェクトというなら、後に使われるものをどう残していくかを意識する必要がある。アトランタオリンピックの時は、メインスタジアムは後にプロ野球の本拠地スタジアムに改造され、プールや幾つかの屋内競技場は幾つかの大学に残して全米レベルの大会が開けるようになったり、選手村が学生寮になったり、オリンピックを契機に企業誘致に成功したりした。今取り組んでいることが、今後に残っていくように検討してほしい。

C 委員

- ・デジタルサイネージやラッピングバスなどを実施しており、亀岡市民にはPRできていると思う。大阪や神戸、東京でもPRは実施しているか。

光秀大河推進課長

- ・首都圏や名古屋でPRを行っている。「ちょこっと関西歴史たび」など、JR西日本と連携して首都圏や中京圏からも人に来てもらえるように取り組んでいる。また、旅行社のパンフレットに掲載してもらって全国へ発信している。

C 委員

- ・SNSは活用しているか。

光秀大河推進課長

- ・SNSでも発信している。ドラマの視聴者は65歳以上が多いということもあり、グーグル合同会社とともにターゲット層の分析を進めている。

D 委員

- ・すごいと感じたのは、大本本部が管理している亀山城跡は聖地であり入れなかったのだが、今年から観光客が入れるようになったこと。大きなパワースポットであり、ドラマが終わるとまた入れなくなるのでは将来に続いていけないので、この状態が続いていくようお願いしたい。
- ・谷性寺を訪れる方は増えており、ゆかりの地がPRできている証拠である。今は受け入れ体制ができているが、体制がなくなれば観光客が来られなくなるので、できるだけ維持していただくようお願いする。

委員長

- ・まとめると、市民には認識が広がっており、逆賊のイメージも払拭されつつある。
- ・SNSでの発信が弱いので、強化していただくと良い。
- ・新たにできた亀山城跡や谷性寺などの観光スポットについては、今後もしっかりとPRして欲しい。
- ・実行委員会等で、レガシーが残っていくような取組を検討してほしい。JRの駅やスタジアム等も活用すると良い。

E 委員

- ・広域連携自治体が多いので、福知山から亀岡へ周遊していただくなど、市町村を越えた誘客が望ましい。

○事業No.2「京都スタジアムを核とした賑わいづくり推進事業」について説明（事務局）

○補足説明（まちづくり交通課）

○事業No.2に係る質疑・意見

E 委員

- ・スタジアムのこけら落としが2月にあったが、その後は試合等が制限されてしまった。サンガの試合に京都市から電車で来る人には、まだスタジアムに対する認識が薄い。スタジアム観戦に亀岡へ来られる方に、地域の魅力をしっかりPRして欲しい。コロナ禍の中でも、料飲連合会のテイクアウト販売は人気であった。できることを考えて、亀岡の魅力を知っていただく機会を作ってほしい。

F 委員

- ・スポーツにあわせた食のイベントということで、にぎやかで良い。スタジアムが試合日はにぎわうが、他の日は閑散としている場合もある。ボルダリングやeスポーツもあるので、日常の部分で盛り上がるがあると良い。カフェテリアで地元食を提供することで、おいしいから実際にお店へ行かれるなどの仕掛けがあると良いと感じた。

G 委員

- ・ J R 亀岡駅のエスカレーターに掲示されたサンガの選手の写真を見たことをきっかけに、スタジアムでの試合をテレビで見るようになった。地場野菜等を使った飲食イベントということで、頑張してほしい。

H 委員

- ・ こけら落としの試合は人が集まった。マルシェの開催も聞いたことがあるが、直前に知ることが多い。市民、府民にうまく伝えられれば、人が集まるのではないかな。
- ・ スタジアムが駅から近いので、経済的には来客に足踏みしてもらわないといけない。メッシのような有名選手がサンガに入ればよいが、小中学生が目指せるスタジアムなど、サッカーの聖地にするような企画があるとよい。

B 委員

- ・ マルシェは飲食店が中心になっている。地元産の野菜を買って帰れると良い。

まちづくり交通課

- ・ 亀岡市直売連絡協議会もマルシェに参画しており、亀岡産野菜等も販売する予定である。

委員長

- ・ まとめると、スタジアムは駅から近いことが利点であるが、また十分に知られていない。
- ・ サンガの試合日だけでなく、違うスポーツ等と組み合わせたり、マルシェだけで人を呼べるような仕組みがあると良い。
- ・ J R 駅は高い広報効果がある。連携して P R していくべきである。
- ・ 昨年度は困難な状況であり、準備期間であったと言える。

○事業No.3「今だけ、ここだけ、貴方だけ観光推進事業」について説明（事務局）

○事業No.3に係る質疑・意見

A 委員

- ・ 平成 30 年から令和元年では、観光入込客が約 50 万人増えた。今年はもっと伸びると期待していたが、コロナの影響で落ち込むと予想している。来年はもっと観光客に来てもらえるよう仕掛けをやっていききたい。南郷公園の明智光秀像は観光の目玉になると考えており、光秀まつりには著名人にきてもらって P R しようと考えていたが、中止になったのは残念である。大本部の亀山城跡は多くの観光客が来られているので、スタジアムと合わせて駅の南北で散策してもらい、お金を使ってもらえるようにしていきたい。

E 委員

- ・ コロナ禍の中でも、アウトドアスポーツやグランピングが人気である。亀岡はアウトドアスポ

ーツが盛んであり、南丹市、京丹波町も含めた南丹地域にはトライアスロン大会等もあり、スポーツツーリズムという方向性が考えられる。トライアスロン大会の参加者の多くは京都市に泊まっているが、湯の花温泉に泊まっていただくなど、宿泊とセットでスポーツイベントを考えていくなどの工夫が必要である。

C 委員

- ・最近、農作業に関わる機会があり、新鮮に感じた。長くやっている人は特に面白くないと言うが、やったことのない人には新鮮に感じるので、観光になると思う。そういう地元では当たり前のことであるが、都会の人には斬新なことを掘り起こしていくと面白いのではないか。

F 委員

- ・カーボンマイナスプロジェクトについてSDGsを題材にしたとあるが、南丹高校の生徒が、SDGsに関わって男女が一緒にできるスポーツは何か聞きに来たことがある。スポーツを通じた持続可能な社会について、SDGsは良い題材となる。食や観光以外に、スポーツで地域を活性化するプログラムを生み出していくことも可能だと思うので、SDGsに絡めて検討してほしい。

B 委員

- ・KPIから計算すると、観光客一人当たりの消費額は2,480円程度となる。平成22年には2,820円程度であったのが落ちてきており、湯の花温泉があってもこれだけ低い状況である。一人当たりの観光消費額を増やしていけるよう、観光客が地元にお金を落とす仕組み、工夫が必要である。

C 委員

- ・市民であっても、霧のテラスや森のステーションかめおかなど、場所が分かりにくいので、行きたいと思う人が苦勞しなくて行けるように工夫が必要である。

委員長

- ・まとめると、時代に応じた取組が必要であり、アウトドアが強い時代なので、今こそアウトドアスポーツをPRすべきである。保津川沿いにもキャンプができる場所がある。農業とセットにするなど、健康の面でも売っていくべきである。
- ・コンテンツの充実と合わせて、伝えていく仕組みが必要である。アウトドアの聖地として宿泊につなげていくような取組を工夫してほしい。

○事業No.4「移住促進拠点活用事業」について説明（事務局）

○事業No.4に係る質疑・意見

G 委員

- ・担当課の職員は、非常に頑張っておられる。田んぼや畑をしたいと空き家を改装して移住されることもあるが、思ったより大変で数年で出て行かれる場合もある。ポツンとした小さな物件を希望される方が多く、山間部や住宅集合地は好まれない。住んでからの生活に不安を感じる方も多い。組織としても協力していきたい。

B 委員

- ・都会へのPRが重要である。イベントの広報等はどうしているか。

ふるさと創生課

- ・「離れ」にのうみのWebサイトもあり、フェイスブック等のSNSでも発信している。また、京都府の発信手段も活用している。
- ・施設改修の監修をもらったアレックス・カー氏は大きな影響力を持っておられ、同氏を通じた発信も行っている。

B 委員

- ・都会から移住される方は、コミュニティに入りたくないということもある。長野県の下村では、住み方を指導する組織を作られ、人口は7,000人程度だが、増加している状況である。変な人が入ってこないよう相談、指導を積極的に行うという考え方もある。亀岡は京都に近く、田舎すぎないので良い場所だと思う。

F 委員

- ・田舎で暮らしたいというニーズには、どう働くかという職がセットになる。野菜を作りたい方には農業の相談窓口があったり、古民家でリモートワークができるなど、どんな働き方ができるか打ち出すというのも一つの手立てである。

I 委員

- ・モデルツアーなど、どのようにPRしていくかが重要である。

B 委員

- ・先ほど紹介した下村では、働き方の点でいうと、近くに工場などもあり農業以外にも多様な選択肢があるという点でPRしている。亀岡も多様な選択肢があると思うので、売りにしていけば良いと思う。

E 委員

- ・在宅勤務の定着で通勤負担が軽減されると住む場所の選択肢も広がってくる。リモートワークの動きにも対応したアプローチが必要である。
- ・亀岡は30歳代と10歳未満の転入が多い。子どもが大きくなってそろそろマイホームを考える

とき、亀岡は非常に優位にある。田舎暮らしをしたい層だけでなく、子育て世代をターゲットにした取組も重要。K P I についても 30 歳代の転入を増やし、就職する世代は転出を抑えるなど、具体的な指標を検討してほしい。

C 委員

- ・会社で働いていると、保険やヤクルト等の勧誘が来られる。京都市の企業の若い社員に対して、直接パンフレットを配るなどできないだろうか。

委員長

- ・良い提案だと思う。世代を絞るという点も。

H 委員

- ・亀岡から京都市へ通勤するには、台風や荒天時など不便もある。若者はリモートワークができるなど、利便性を求めていると思う。ターゲットを絞るかどうかは難しいだろうが、課題である。

E 委員

- ・子育て世代にとって、どこに住むかを考える際には、交通アクセスに加えて子育て環境の良し悪しが特に重要である。移住促進と子育て支援を両輪で進めてほしい。

委員長

- ・まとめると、対象を絞ってツアー等の P R をすることが必要。
- ・移住後の仕事に大事。京都市で働いている方に直接 P R するというのも一つの手。
- ・子育て世代に選ばれている。農山村だけでなく、子育て世代や若い人が求めている暮らしを意識することが必要。
- ・誰が P R するかが大切で、若い世代のカリスマを大使にするなど、独自の展開があると、京都市近郊の中でもピックアップされるまちになるのではないかな。
- ・事業としては拠点の整備や P R、連携もできているので、今後も意見を参考に進めてほしい。

(2) 亀岡市人口ビジョン・総合戦略（素案）

(3) 今後のスケジュール について説明（事務局）

委員長

- ・基本目標については総合計画で検討してきた重点テーマとなっており、そこに基本的方向を振り分けることとなる。振り分け方や言葉に対する意見など、お願いしたい。

B 委員

- ・人口ビジョンの 5 頁にあるように、若い世代が転出超過であっても 20 歳代後半～40 歳代で転入超過に戻る市町村が多いが、亀岡はそこまで戻ってきていないことが問題である。戻ってきたくなるまちづくりが必要で、そういった世代が戦略のターゲットになりうる。

委員長

- ・重要な点は、移住定住を進める上でどこをターゲットにして、どのように取り組むかである。20～30 歳代で転出超過となっている状況をどうするか。

F 委員

- ・基本目標と各施策の関係性については、総合計画での議論を反映していけば良い。

委員長

- ・基本目標 3 の基本的方向が一つしかないので、プラスチックごみゼロや新エネルギー会社などを入れた方が良い。
- ・移住定住に関して、ターゲットの話は入ってくるべきである。農山村ではなく、普通の生活を希望する方についての施策がない。

E 委員

- ・京都府においてもこれまでの移住条例を見直す議論をしている。

委員長

- ・京都府の施策に対応できる文言を入れておくといい。亀岡は移住の受け入れ先となれるはず。

B 委員

- ・C 委員から出ていた企業への移住PRという話は良いと思う。そういう時に、若者はライフスタイルを重視しているので、働くだけでなく夜はこんなことができるなど、情報があると良い。亀岡はアウトドアスポーツやスタジアムもあり、文化面では京都市に行くことができ、農業もできる。ライフスタイルを提示すれば、30～40 歳代のグラフが上がってくる可能性がある。

F 委員

- ・施策と連動して、どこに重点を置くかである。基本目標 1 「子育てしたい、住み続けたいまちへ」には第 5 次総合計画基本計画の第 3 章「子育て・福祉・健康のまちづくり」、第 4 章「豊かな学びと文化を育むまちづくり」が関連しており、ここが充実して学びや多様な文化、スポーツができるようになれば、若い世代が十分来るのではないか。関連して基本目標 5 「次代をリードする新産業を創出するまちへ」でも、仕事の面に重点を置いた具体的な施策をどう実施していくかが重要である。

C 委員

- ・若い世代に来てもらうのは大事だと思う。乳幼児や未就学児の子育て支援にはどこの自治体も力を入れており、飛びぬけて頑張っていると宣言するには、かなりのことをやる必要がある。亀岡も大方のことができているので、教育について差別化ができると良い。また、環境面の取組が他と違うアピールポイントになると良い。

委員長

- ・まとめると、移住においては環境が重要で、子育て環境についても十分記載していくべき。仕事についても、どう作っていくかを明確にする必要がある。
- ・他の自治体とここが違うというポイントを見せられるように、総合計画からも言葉を拾い上げて入れてほしい。

3 閉会

事務局

- ・以上で会議を終了させていただく。長時間にわたり、感謝申し上げます。

以上